

平成21年度 病害虫発生予察臨時情報 第1号

平成21年6月25日
島根県病害虫防除所

イネ縞葉枯病が早くも発生。ヒメトビウンカの防除を！

昨年突発的に多発生したイネ縞葉枯病が、6月9日に県東部のハナエチゼンで本年初めて確認されました。昨年に比べて1か月早い初発生の確認です。また、6月19日には県西部のコシヒカリで発病株が認められ、その後、きぬむすめ、ミコトモチでも発病が確認されました。

本病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病です。病原ウイルスを保毒したヒメトビウンカの割合が高かったことに加え、越冬世代成虫が県内各地で確認され、高密度であったことから、4月23日付けで注意報を発令しております。

縞葉枯病は感染が早いほど被害程度が大きくなる傾向にあることから、今後、県内各地で被害の発生が懸念されます。媒介虫であるヒメトビウンカの発生状況等の把握に努め、防除の徹底をお願いします。

記

1. 病害虫名 イネ縞葉枯病（媒介虫：ヒメトビウンカ）
2. 発生地域 県下全域
3. 発生量 多い

4. 情報発表の根拠

- 1) 雑草地等において多数のヒメトビウンカの棲息が確認されており、6月上旬以降、第一世代成虫の水田への飛び込みが活発化している。
- 2) 一部地域ではヒメトビウンカ成幼虫の寄生密度が高い水田が散見される。
- 3) 6月中旬に採取されたヒメトビウンカ第一世代成虫の保毒虫率は8.8%と依然高い。
- 4) 1か月予報(6月19日広島地方気象台発表)によると、気温は高い確率が50%で、ヒメトビウンカの増殖を特に抑制する要因とはならない。

5. 当面の防除対策

- 1) 発病株を認めた場合には抜き取る。
- 2) 第一世代成虫の侵入が多い場合には成虫を対象に直ちに本田防除を行う。
- 3) 前年発生が多かった地域では、第一世代成虫～第二世代幼虫期に本田防除を行う。
- 4) 薬剤の使用に当たっては、農薬の使用基準ならびに農作物病害虫雑草防除指針の注意事項を遵守する。



写真 コシヒカリの発病株
(葉がこより状となる)